

---

## 品目別調査結果

---

- 県産米生産量については、平成23年産において対前年比約2割減少、平成27年以降はほぼ横ばいの傾向にあったが令和3年産は対前年比約1割減少した。
- 平成25年産以降、飼料用米等の主食用以外の割合が増加し令和3年産では生産量の約1割を占める。

## 福島県産米の生産量推移



データ出所：農林水産省「作物統計」

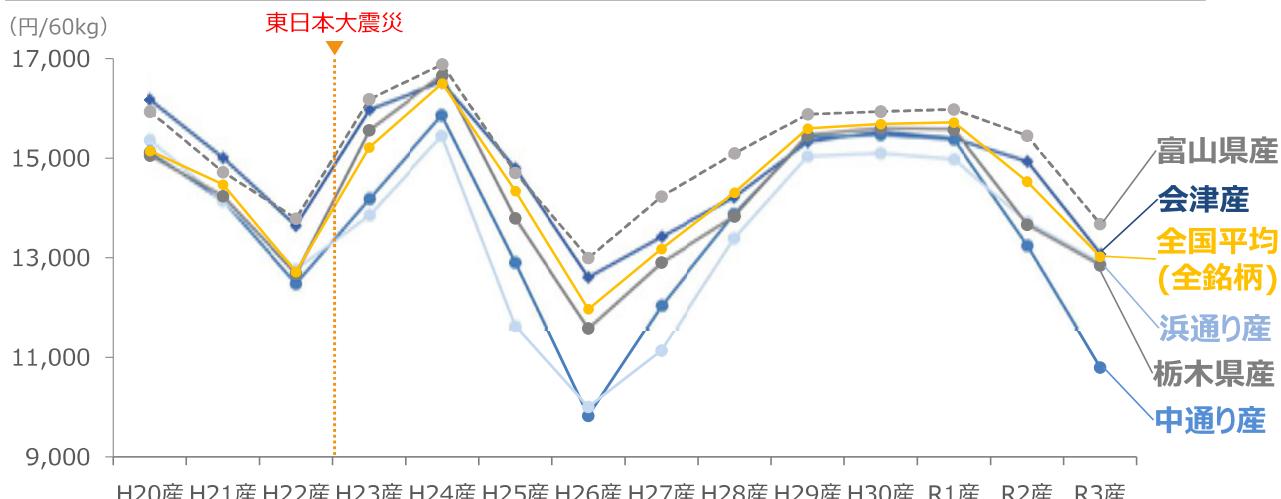
※水稻の収穫量の数値

35

## 福島県産米の相対取引価格の推移（概要調査）

- 会津産コシヒカリの相対取引価格は、震災後富山県産コシヒカリと価格ポジションが逆転して以降、下位に位置している。また、栃木県産コシヒカリより概ね上位に位置している。
- 中通り産・浜通り産コシヒカリは、震災以前は栃木県産コシヒカリの価格ポジションとおおむね同じであったが、震災直後に大きく差が広がった。令和3年産においては、浜通り産コシヒカリは栃木県産コシヒカリと殆ど同じ、中通り産コシヒカリは下位に位置している。
  - ヒアリングでは、中通り産コシヒカリは業務用米としての販売も多く、新型コロナウイルスによる外食需要減が価格下落の理由として挙げられていた。

## 会津・中通り・浜通り産コシヒカリと栃木県産・富山県産コシヒカリと全国平均の相対取引価格推移

データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告書」  
※令和3年産は11月の価格

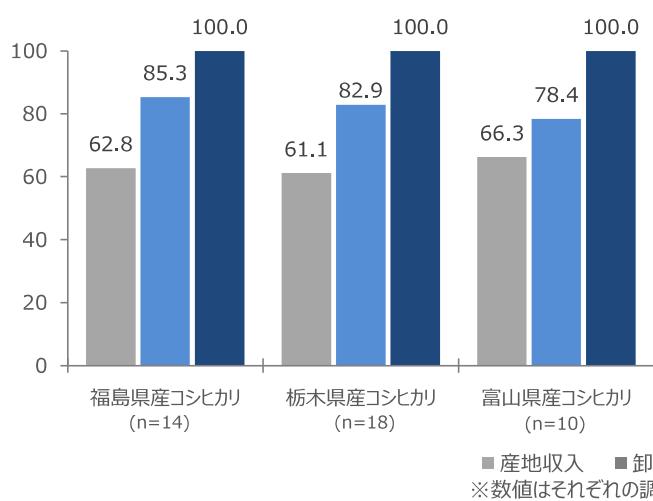
※出荷業者（年間玄米販売量5,000トン以上）と卸売業者などの間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格を加重平均したもの。運賃（最寄りの大消費地への運賃）、全農福島出荷分は平成27年産から運賃を含まない）、包装代、消費税を含む価格。

※相対取引価格が低い平成22年産や26年産の時期には、民間在庫の増加や、出荷業者の販売数量の増加が生じていた。

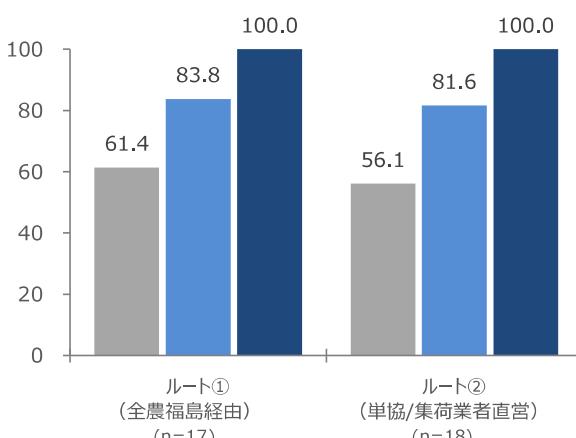
36

- 栃木県産米や富山県産米との比較において、产地・卸・小売の各流通段階の価格形成の構造に大きな差異は見られない。
- 福島県産米の产地からの出荷ルート別の比較では、「②単協/集出荷業者経由」は自社集荷して販売し、全体的な単価が低い事例も含まれていることから、相対的に产地収入や卸販売価格の割合がやや低い状況。
  - 近年、倉庫での保管費用や運搬費などの経費が高騰していることから、卸売業者も卸販売価格を上げざるを得ない状況になっている。
  - 福島県産米に限らず、消費者の米需要が減少傾向にあり、小売価格引上げの対応が出来ないため、产地収入と卸販売価格の比率が全体的に高くなっている。

米の価格形成 1 (产地間比較)



米の価格形成 2 (流通経路間比較)

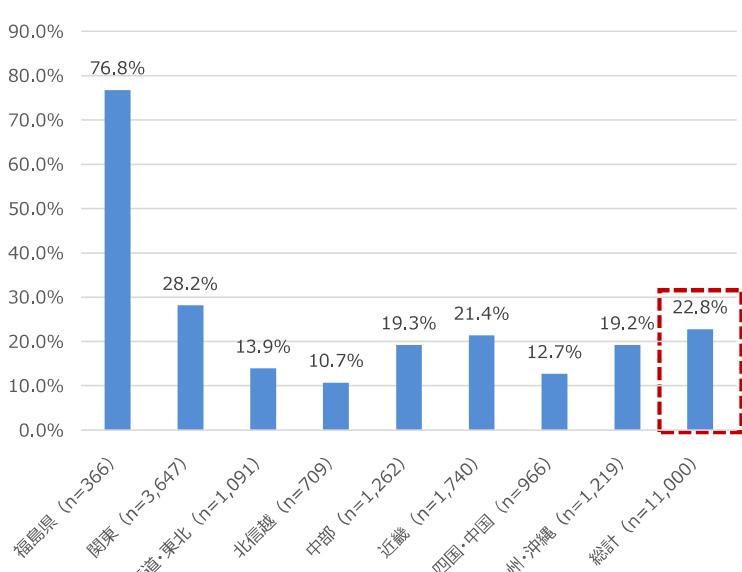


37

## 福島県産米の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

- 全国の消費者のうち、福島県産米を購買した経験がある消費者は22.8%であった。
  - 福島県内居住者では76.8%、関東居住者では28.2%であった。
- 購買経験者に福島県産米の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が7割以上を占めた。

福島県産米の購買経験率

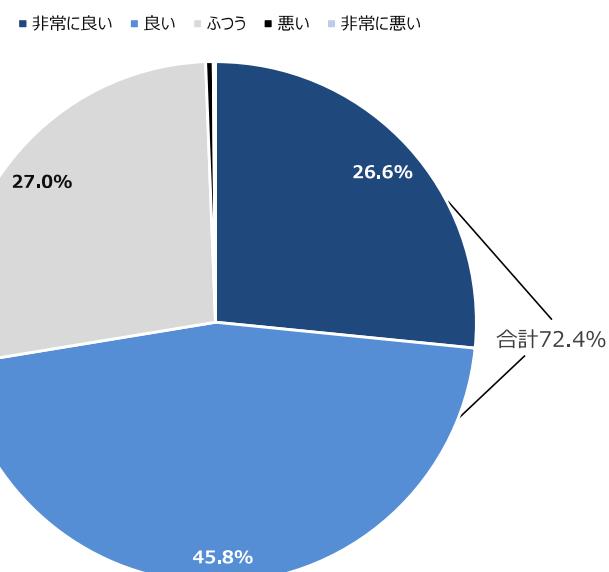


※購買経験率＝1度でも購買したことがある人数／回答者数

※記憶に関する質問であるため、产地を認識せず買っていれば購買経験なしとなる。

※令和2年国勢調査における年代別人口比と合わせるために、ウェイトバック集計をしている。

福島県産米購買者の評価 (n=2,515)

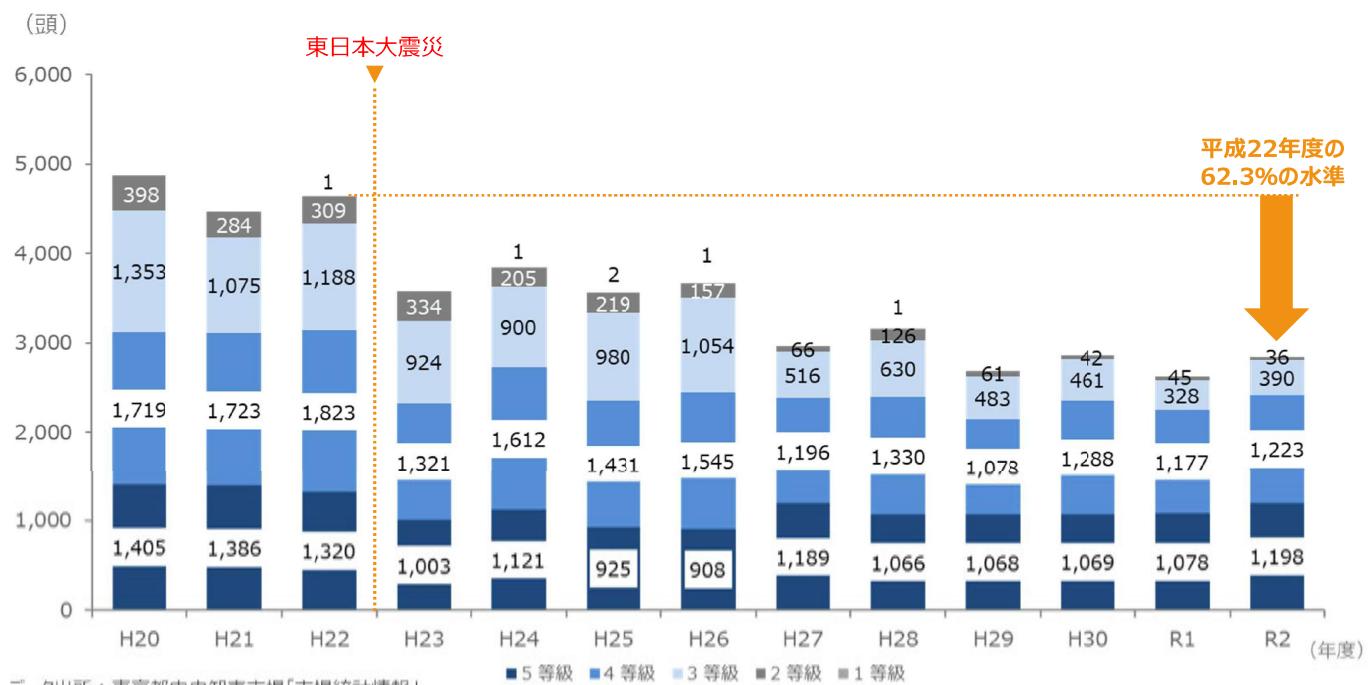


※福島県産米を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

38

- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移し、平成29年以降は概ね横ばいの傾向である。
- 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は、平成27年以降80%前後の高い比率で推移している。

## 東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

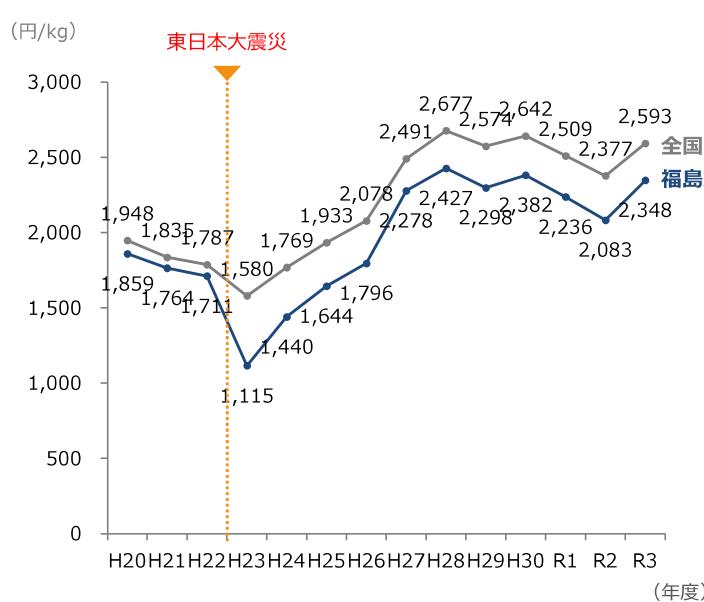


39

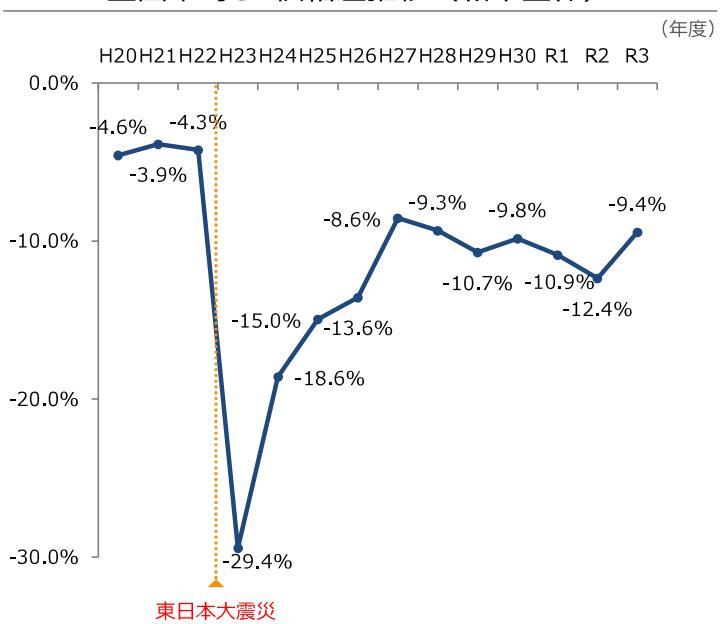
## 福島県産牛の枝肉価格の推移（概要調査）

- 福島県産和牛の枝肉平均単価は、全国平均と同様の傾向で推移している。
- 全国平均との価格差は平成23年度に拡大した後、平成27年度にかけて縮小したが、平成28年度以降は-10%程度で推移している。

## 卸売市場平均価格推移（和牛全体）



## 全国平均との価格差推移（和牛全体）



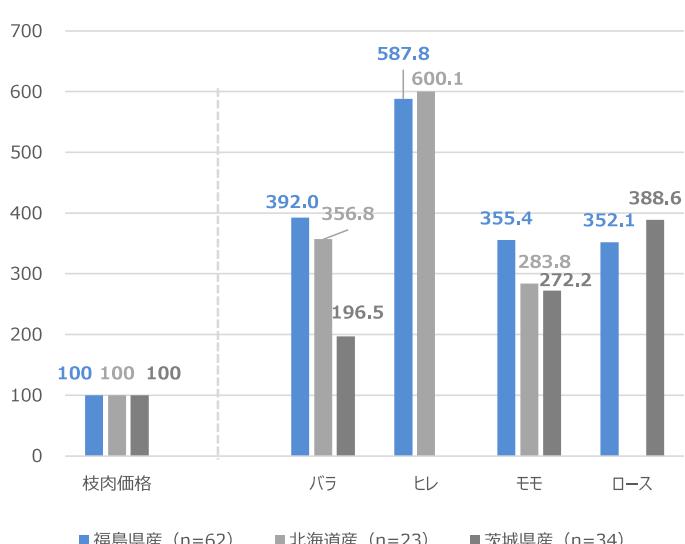
※令和3年度は、令和3年12月までの実績を使用。

※福島県産及び全国平均とともに、枝肉価格は去勢と牝の平均単価を用いた。

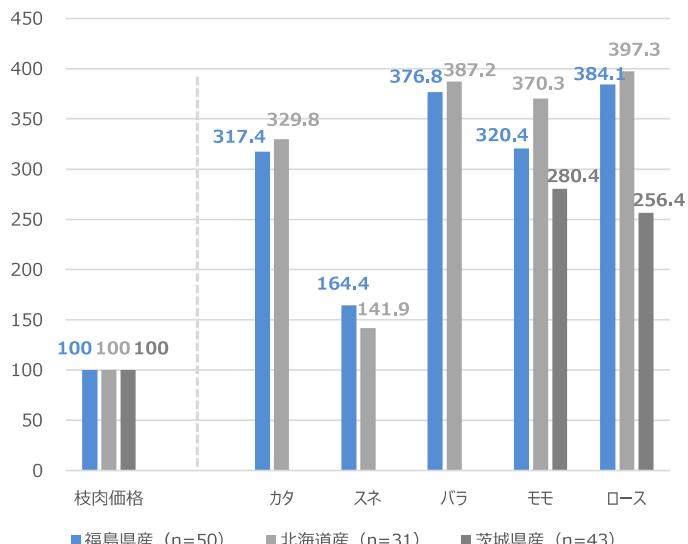
- 牛肉について、枝肉価格と小売価格を収集し、枝肉価格を100としたときの小売価格を部位ごとに产地間で比較した。
- 北海道産和牛や茨城県産和牛との比較では、福島県産和牛の流通マージンが高い部位もあれば、北海道産和牛や茨城県産和牛が高い部位もあり、产地間で一貫した傾向はみられなかった。

### 福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛の枝肉価格と小売価格の比較

①产地市場ルート



②県外市場ルート



※数値はそれぞれの調査で、枝肉価格を100とした指数。

※枝肉価格は、東京食肉市場における8月、10月、12月の平均値とした。小売価格は、8月、10月、12月に実施した小売店などの価格の平均値を部位ごとに集計した。

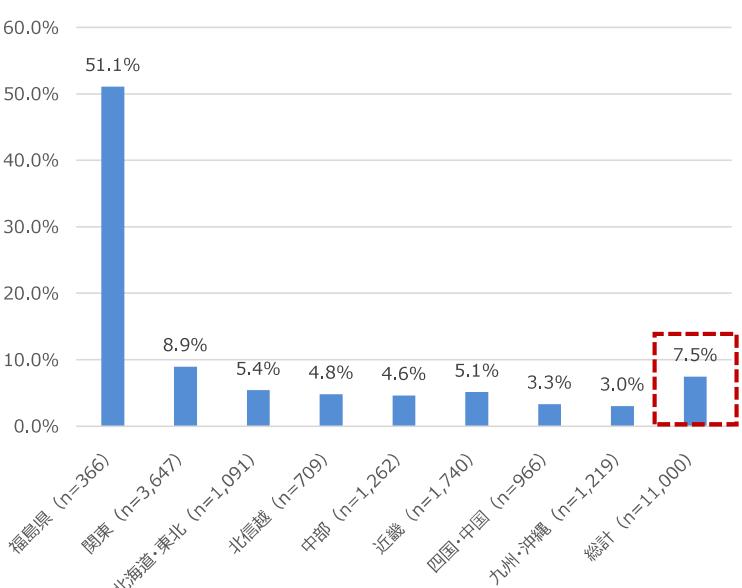
※福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛のそれぞれのn数は、調査で収集できたアイテム数。

41

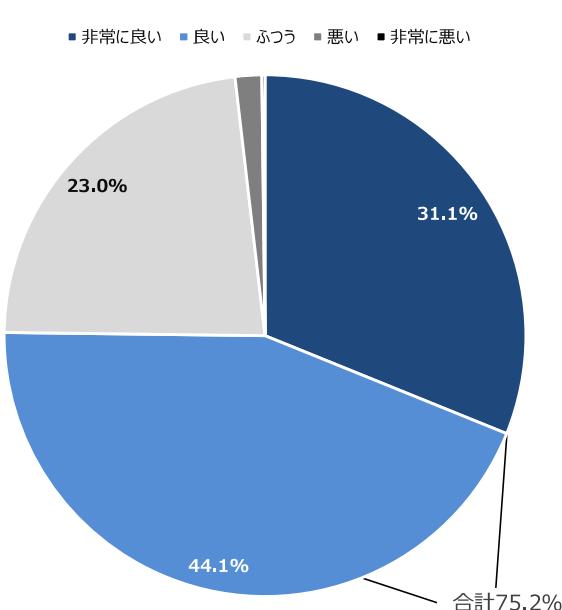
### 福島県産牛肉の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

- 全国の消費者のうち、福島県産牛肉を購買した経験がある消費者は7.5%であった。
  - 福島県内居住者では51.1%である。なお、県外では「国産牛」として販売されている可能性がある。
- 購買経験者に福島県産牛肉の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が8割近くを占めた。

福島県産牛肉の購買経験率



福島県産牛肉の購買者評価 (n=832)



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数／回答者数

※記憶に関する質問であるため、产地を認識せず買っていれば購買経験なしとなる。

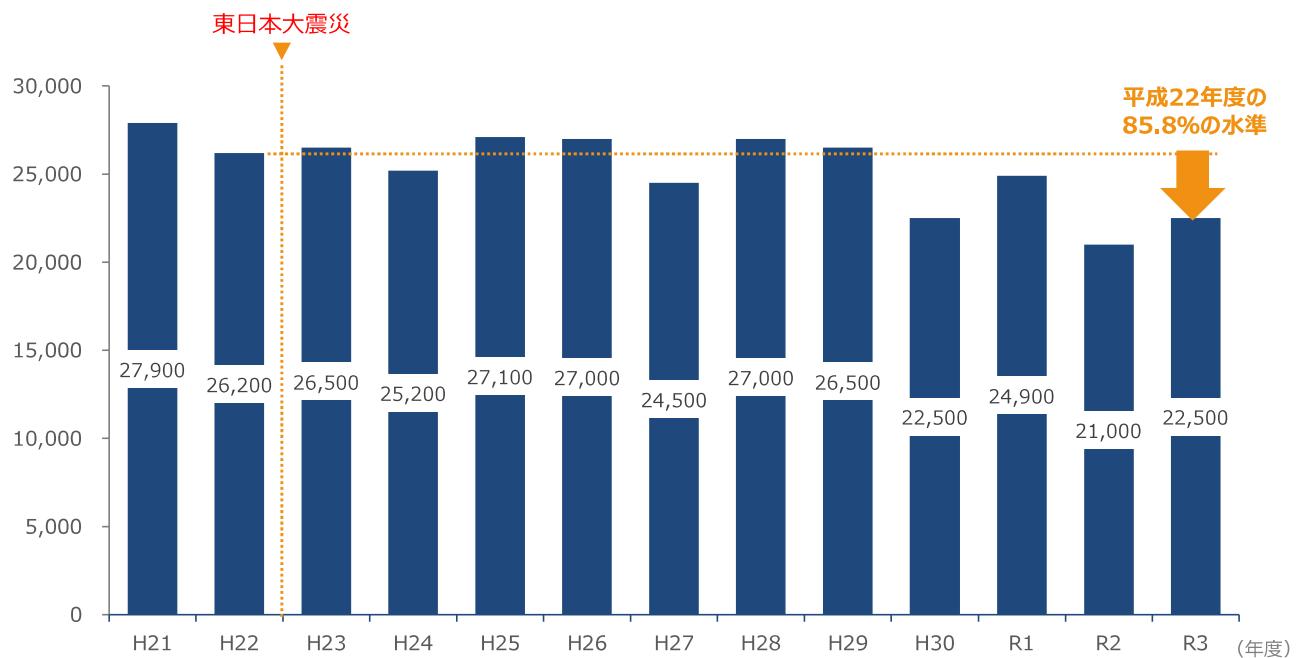
※令和2年国勢調査における年代別人口比と合わせるため、ウェイトバック集計をしている。

※福島県産牛肉を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

42

- 令和3年度の福島県産桃出荷量は、平成22年度の85.8%となった。

### 福島県産桃の出荷量推移



データ出所：農林水産省「果樹生産出荷統計」

43

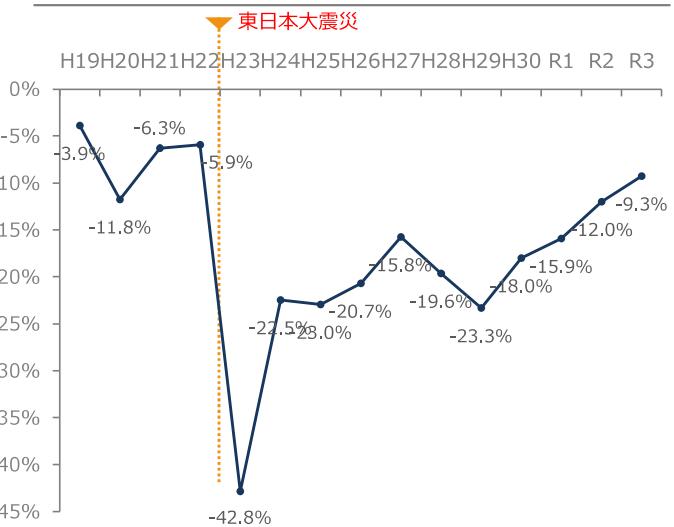
### 福島県産桃の市場価格の推移（概要調査）

- 東京都中央卸売市場での福島県産桃の平均単価は、震災直後に下落した後、徐々に回復。
- 全国平均との価格差が平成23年度に拡大した後、徐々に回復傾向にあるが、令和3年度においても震災前よりも価格差が残っている。

#### 東京都中央卸売市場における平均単価の推移



#### 全国平均と福島県産品の価格差の推移



※福島県産品と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。  
例えば、福島県産品が全国平均より1割安ければ-10%となる

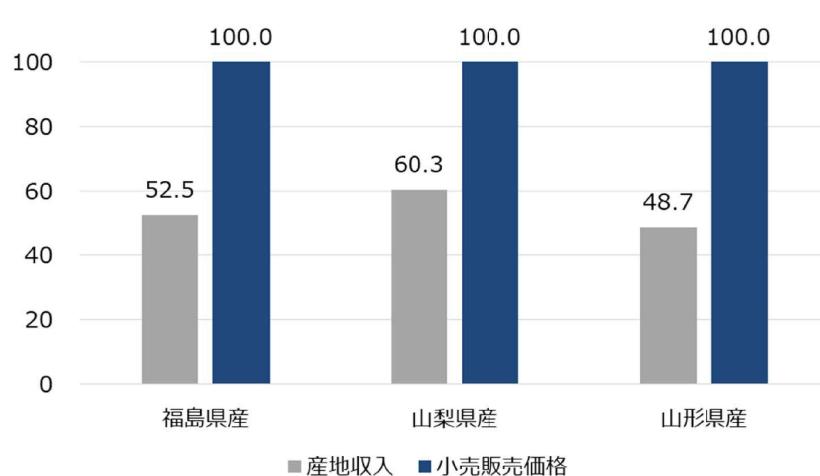
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」(7~9月の平均価格)

44

- 量販店の贈答用桃の事例。

- この小売業者では、産地の集出荷業者から直接、贈答用桃を仕入れている。
- 福島県産・他県産桃ともに、小売業者の値入率に明確な差は見られなかった。

桃の価格形成事例



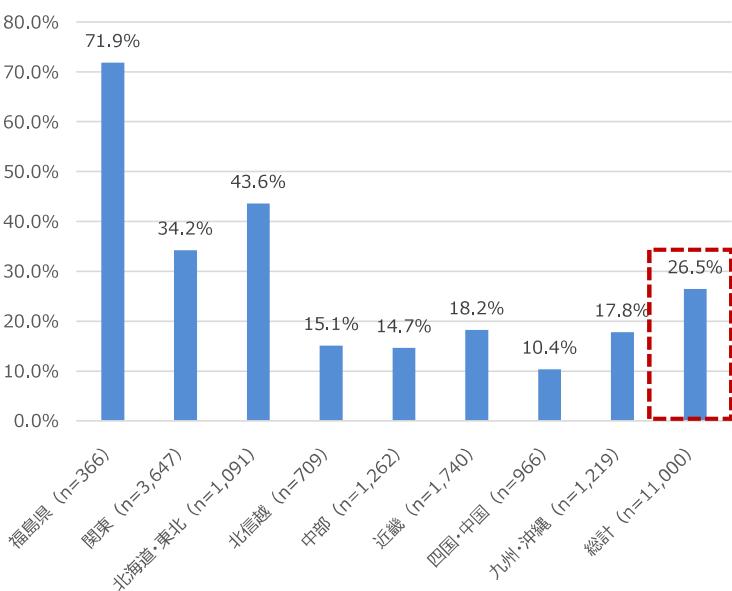
※数値は小売価格を100とした指数。

※福島県産品は7商品の平均、山梨県産品は8商品の平均、山形県産品は1商品の値。

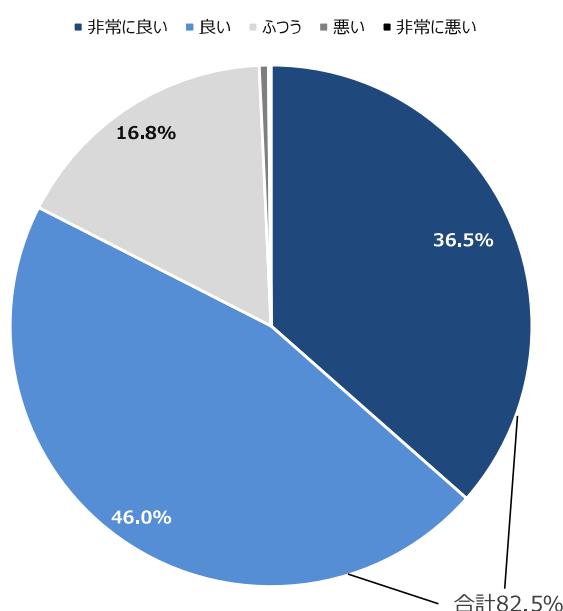
## 福島県産桃の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

- 全国の消費者のうち、福島県産桃を購買した経験がある消費者は26.5%であった。
  - 福島県内居住者では71.9%、北海道・東北居住者では43.6%、関東居住者では34.2%であった。
- 購買経験者に福島県産桃の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が8割以上を占めた。

福島県産桃の購買経験率



福島県産桃購買者の評価 (n=2,916)



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数／回答者数

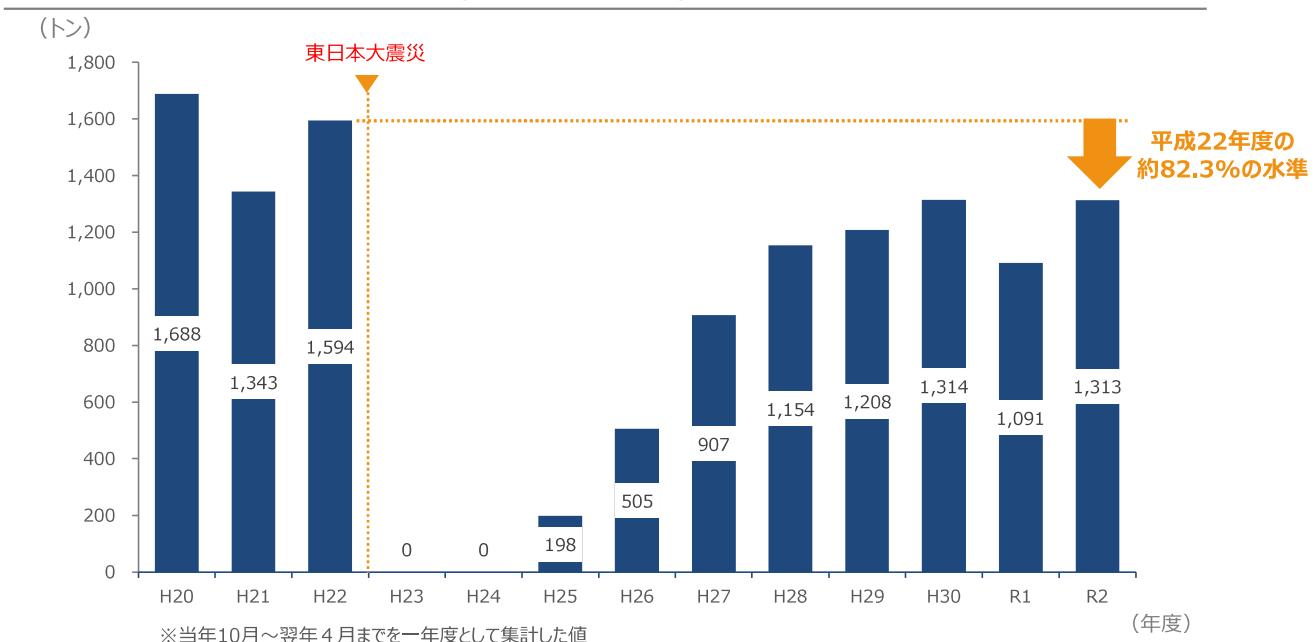
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていない場合は購買経験なしとなる。

※令和2年国勢調査における年代別人口比と合わせるため、ウェイトバック集計をしている。

※福島県産桃を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

- 福島県産あんぽ柿は、震災直後に出荷を自粛した後、平成25年度に出荷を再開して以降、徐々に出荷量は回復。
- 令和2年度の出荷量は、平成22年度実績の約82%となっている。

### 福島県産あんぽ柿の出荷量の推移



データ出所：福島県調べ

47

### 福島県産あんぽ柿の市場価格の推移（概要調査）

干し柿のデータ

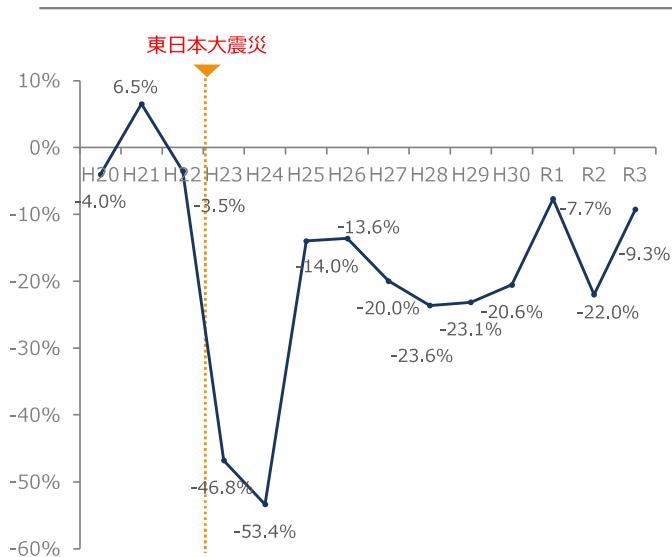
- 令和3年度の東京都中央卸売市場での福島県産干し柿の平均単価は、全国平均と同様に上昇した。
- 震災前は全国平均とほぼ同程度の価格であったが、近年は全国平均を下回る水準で推移している。

### 東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和3年度は、令和3年12月までの実績を使用。

### 全国平均と福島県産品の価格差の推移



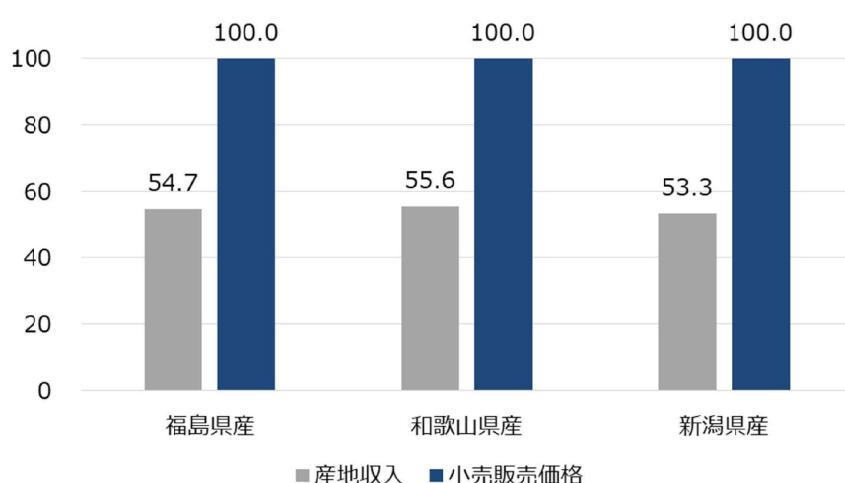
※福島県産品と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。  
例えば、福島県産品が全国平均より1割安いければ-10%となる

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

48

- 量販店の年末贈答用あんぽ柿の事例。
  - この小売業者では、産地の集出荷業者から直接、贈答用あんぽ柿を仕入れている。
  - 福島県産・他県産あんぽ柿とともに、小売業者の値入率は全商品でほぼ同程度であった。

### あんぽ柿の価格形成事例



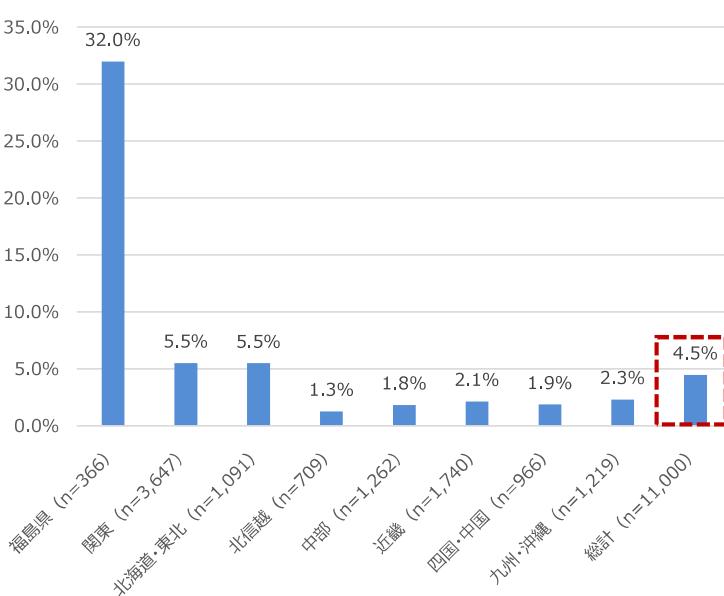
※数値は小売価格を100とした指数。

※福島県産品と和歌山県産品は3商品の平均、新潟県産品は1商品の値。

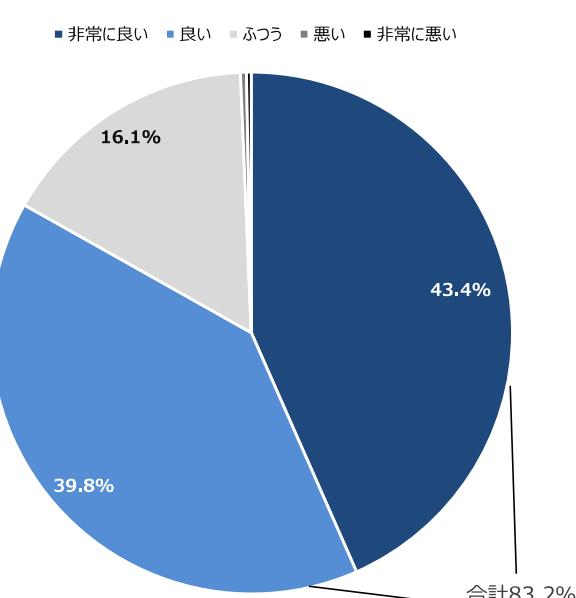
### 福島県産あんぽ柿の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

- 全国の消費者のうち、福島県産あんぽ柿を購買した経験がある消費者は4.5%であった。
  - 福島県内居住者では32.0%である。なお、北信越・中部以西への出荷は限定的と考えられる。
- 購買経験者に福島県産あんぽ柿の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が8割以上を占めた。

#### 福島県産あんぽ柿の購買経験率



#### 福島県産あんぽ柿購買者の評価 (n=509)



\*購買経験率=1度でも購買したことがある人数／回答者数

※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていない場合は購買経験なしとなる。

※令和2年国勢調査における年代別人口比と合わせるために、ウェイトバック集計をしている。

※福島県産あんぽ柿を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。